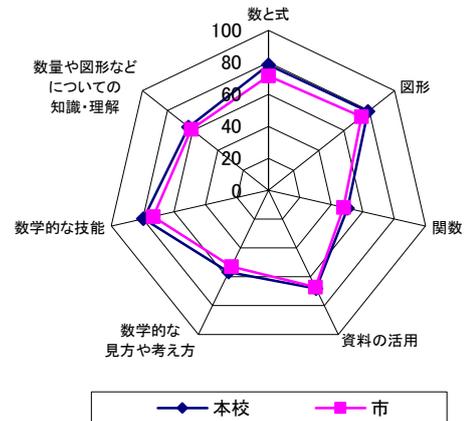


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	78.4	71.5	66.8
	図形	79.0	73.8	70.4
	関数	50.4	47.8	41.6
	資料の活用	68.1	67.1	61.4
観点別	数学的な見方や考え方	56.8	52.8	45.8
	数学的な技能	79.5	73.3	68.1
	数量や図形などについての知識・理解	63.3	61.2	57.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率は、1問を除いて市の平均を上回っており、領域全体では6.9ポイント上回っている。 $(x+m)2=n$の形の2次方程式を解く問題や問題文にあった2次方程式をつくる問題では、市の平均を約13ポイント上回っている。さらに、平方根の分母を有理化化する加法の問題では、市の平均を17.0ポイント上回っている。 ●自然数を選ぶ問題では、唯一市の平均を4.9ポイント下回っており、42.5%の正答率となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観点別では、数学的な技能に関する問題の正答率はとても高いが、知識理解に関する問題の正答率は、それと比べると低い。用語の意味などがしっかり理解できるように、授業の中で意識して言葉を使ったり、確認する問いかけなどを行って、身に付くようにしていきたい。 計算力はかなり身に付いてきているので、今後は文章題への活用にさらに力を入れていきたい。
図形	<p>平均正答率は、すべての問題で市の平均を上回っており、領域全体では5.2ポイント上回っている。 ○折り目の線を作図する問題では市の平均正答率を9.7ポイント上回る84.4%、また、相似の証明に必要な相似条件を選ぶ問題では市の平均正答率を8.3ポイント上回る86.9%の正答率となっている。 ●証明の過程で同位角が等しいことを指摘する問題では、正答率は91.9%と高い正答率をとっているが、他の問題と比べ、市の平均正答率と1.9ポイント上回っているにとどまった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形の基本的な性質は、よく理解している生徒が多い。今後は、それを活用する場面を授業の中で数多く取り入れ、図形の問題について多面的な見方ができる力を身に付けていきたい。 空間図形は1年生の後半、および3年生の後半で教科書に出てくる内容であり、2年生ではあまり触れる機会がなかったため、意図的に他の単元と融合した形で問題を準備し、取り組む時間を取り入れ空間図形への苦手意識をなくしていきたい。
関数	<p>平均正答率は、1問を除いて市の平均を上回っており、領域全体では2.6ポイント上回っている。 ○関数$y=ax^2$の変域を求める問題では、市の平均正答率を9.5ポイント上回っている。 ●比例の関係でのx、yの値の変化についての問題では、市の平均正答率を2.9ポイント下回る22.5%の正答率であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> どの関数でも、xとyの関係を式で表したりグラフに表したりする力は、おおむね身につけている。ただ、それを関連付けて考える問題が苦手な生徒が多い。そのため、関数の単元の後半に十分に問題演習の時間を確保し、多くのパターンの問題に慣れるようにする。また、図形との融合問題も多くあるため、関数だけでなく図形の単元の際にも、問題演習を取り入れ、考え方に慣れるようにしていきたい。
資料の活用	<p>平均正答率は、2問を除いて市の平均を上回っており、領域全体では1.0ポイント上回っている。 ○多数回の試みから適切な確率を選ぶ問題では、市の平均正答率を3.2ポイント上回っている。 ●度数分布表から相対度数を求める問題では、市の平均正答率を2.2ポイント下回る56.9%の正答率であった。また、分かっている確率をもとに逆の事柄の確率を求める問題では、市の平均正答率を0.3ポイント下回る83.8%の正答率であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 相対度数、平均値、中央値、最頻値、範囲などの意味をしっかりと把握できるよう、2年生や3年生になっても、折を見て復習するようにしていきたい。 相対度数、平均値、中央値、最頻値、範囲などの言葉を利用して、資料の特徴を説明する問題なども取り入れ、用語の意味の理解を深めていきたい。 確率の問題では、順番が関係する場合、組み合わせを考えればよい場合にしっかりと分けて考えられるよう、様々な問題場面を授業の中で取り入れていきたい。